

博物館を活用した学校教育活動<砂川小学校の事例を中心として>

- 付録. 博物館に関する市民の意識調査アンケート結果 -

下地治人（砂川小学校教諭）・久貝弥嗣（市総合博物館学芸員）

*アンケート調査実施：砂川小学校 6 年生 15 名

はじめに

博物館法の第 3 条には、博物館の主な事業が 10 項目記されており、その第 10 項には、「学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること」とある。また、小中学校に係る新学習指導要領（平成 20 年 3 月 28 日公示）でも、社会、理科、図画工作、美術、総合的な学習の時間などにおいて、博物館や美術館、郷土資料館等を見学・調査したりするなどして活用することの旨が記されている。これらの法や指導要領を引用するまでもなく、博物館は、地域の自然、歴史、民俗、美術などの文化を児童・生徒が学ぶ上で重要な施設である。

博物館を舞台とした児童・生徒の学習に関するものとして、市総合博物館(以下、博物館)では、小学校 5～6 年生を対象とした「子ども博物館」を年 6 回実施し(平成 22 年度の場合)、企画展に関連してワークショップなどを開いている。また、学校側においても毎年多くの児童・生徒たちが博物館をおとずれ、郷土の文化を学ぶ場として活用している。

その一方で、郷土の文化を深く理解していくためには、従来の展示見学と調べ学習型の博物館の活用方法に加え、自然、歴史、民俗などの各分野における地域の特色ある文化を学ぶための独自の授業計画も必要であると感じた。博物館は、地域の文化を後世に残していくと同時に、積極的に伝えていくことも重要な役割としてこれまでも実践してきた。今後この点をより強めていくためにも、学校と博物館の連携の強化は必須といえる。そういった意味で、今年度の砂川小学校の博物館を活用した教育活動は、今後の参考となるのではないかと考え、今回報告を行うこととなった。

そこでまず本論では、平成 22 年度における学校側の博物館での学習方法をふりかえり、その活用方法について整理を行った。また、平成 13 年度以降の博物館への入館件数(各学校の学年単位など)及び入館者(見学者)数の推移についても整理を行った。そして、実際に砂川小学校の博物館学習の事例を紹介し、今後の学校と博物館が連携して授業を進めて行くうえでの、課題点をそれぞれ立場から抽出した。そうすることで、今後より良い博物館を活用した教育活動を行っていけると考えた。

なお、本論ではあわせて砂川小学校 6 年生が博物館の学習をとおして実施した「博物館に関する市民の意識調査アンケートの結果」についても末尾にて報告する。

1. 博物館学習

(1) 博物館での学習方法

学校側が博物館を利用して行った学習活動について、平成 22 年度の実施例を対象に以下の 4 つのタイプに分類した。

- a. 教科書単元の一つとして利用
- b. 学校独自単元として利用
- c. 企画展・特別展などにあわせた利用
- d. 市民塾（職員出前講座）の利用

a の具体的な事例としては、小学校 5 年生の学習内容の一つとして、昔の道具について調べる単元があり、11～12 月に各小学校からのまとまった見学があった。今年度は、第 15 回企画展の企画展の内容・時期とも一致して多くの見学希望があった。

b は、独自単元として、博物館での学習を取り入れたもので、砂川小学校の事例がこのタイプにあたる。詳細については項を改めるが、宮古の先史時代や、博物館の利用・予算状況などのテーマを設けて博物館学習を行った。これらは、社会科の学習内容にあわせて実施したり、総合的な学習活動の一環として活用された。

c の事例としては、6 月に博物館で実施した慰霊の日関連企画展にあわせて、5 つの小・中学校が平和学習を目的に見学を訪れた。

d は、非常に稀な事例であるが、市企画政策部の実施する「市民塾（職員出前講座）」を利用したもので、平成 22 年度には 2 件の利用があった。これは、博物館の担当者が、学校に赴き授業を行うものである。博物館を見学する前の事前学習や、博物館がどのような場所であるかを知ってもらうには、有効的な利用方法の一つである。

以上は、平成 22 年度の事例のみであるが、主な博物館での学習方法である。その他にも、遠足の途中で訪れたりする事例なども僅かに確認される。割合としては a タイプが最も多かったが、平和学習の場としての、慰霊の日関連展示には大変関心が高いことが伺える。



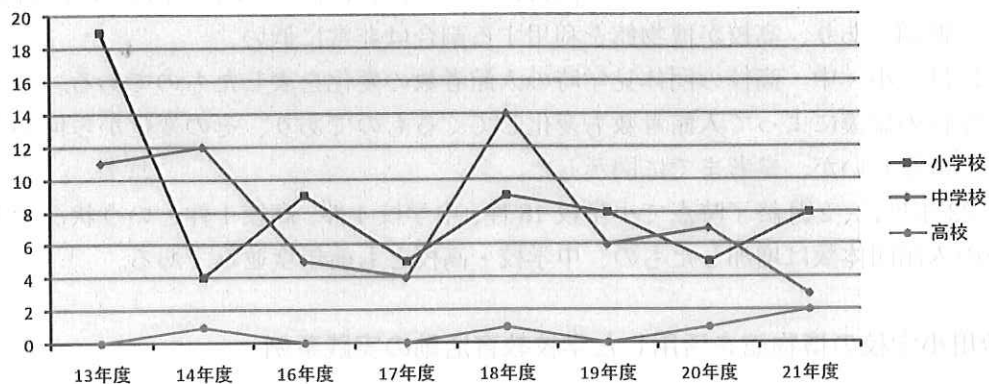
写真 1 博物館見学風景(昔の道具を調べる)



写真 2 博物館・研修室での学習風景

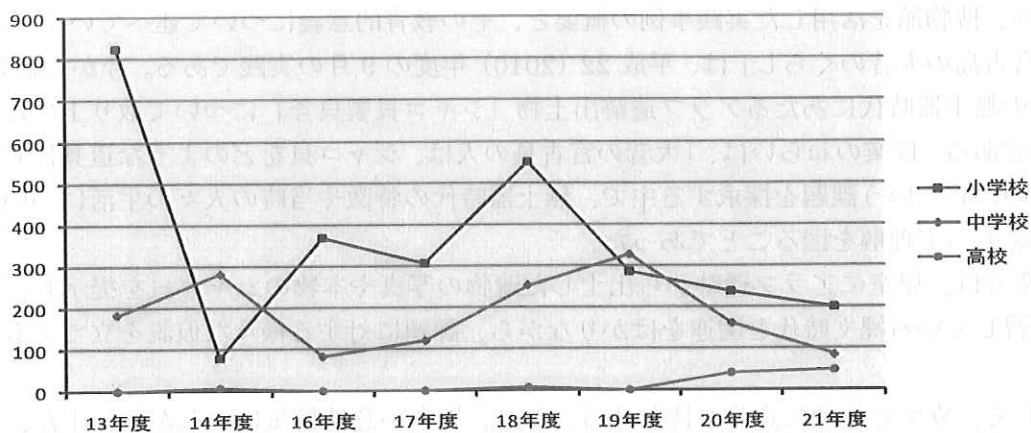
(2) 宮古島市総合博物館における小・中・高校生の入館者の変移

平成13～21年度における、宮古島市総合博物館の小・中・高校生の入館団体件数(各学校の学年単位など)と、学校見学の入館者数の変移を図1・2のグラフに記した。



	13年度	14年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
小学校	19	4	9	5	9	8	5	8
中学校	11	12	5	4	14	6	7	3
高校	0	1	0	0	1	0	1	2

図1 平成13～21年度の入館団体件数(各学校の学年単位など)変移



	13年度	14年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
小学校	825	81	369	307	549	285	236	199
中学校	184	281	84	121	253	326	161	85
高校	0	6	0	0	8	0	41	50

図2 平成13～21年度の学校見学の入館者数の変移

図1をみると、小学校については、平成13年度をのぞいた平成14～21年度で、若干の増減はあるものの約6～7校程度を平均に変移している。中学校については、平成13、14、18年度は、2桁台の見学がみられる一方で、それ以外の年度では、3～7件と低調な状況を示しており、グラフの変動が大きい。高校については、ほぼ0～1件(平成21年度は2件)と非常に低調であり、高校が博物館を利用する割合は非常に低い。

図2には、小・中・高校の団体見学時の入館者数の変化を表したものである。本グラフは、各学校の規模によって入館者数も変化してくるものであり、その変化から何かを意義だすことは難しいが、参考までに図示した。

平成22年度は、2月終了時点で小学校18件、中学校4件、高校1件という状況である。小学校の入館団体数は増加したものの、中学校・高校とも前年度並みである。

3. 砂川小学校の博物館を活用した学校教育活動の実践事例

宮古島市立砂川小学校では、平成22(2010)年度の9月から3月の期間、社会科において「宮古島の大昔の暮らし」「政治と私たちの暮らし」、総合的な学習の時間¹において「宮古島の世界遺産」「金志川豊見親」の4つの教育実践を博物館と連携して取り組んだ。

どの教育実践も、地元、つまり、地域の歴史的、社会的事象を素材とした特色ある実践となっている。また、関係者から、それらの教育的意義についても、高い評価をいただいた。

では、博物館を活用した実践事例の概要と、その教育的意義について述べていく。

「宮古島の大昔の暮らし」は、平成22(2010)年度の9月の実践である。今から約3000年前の無土器時代にあたるアラフ遺跡出土物「シャコ貝製貝斧」について取り上げた歴史学習である。授業のねらいは、「大昔の宮古島の人々は、シャコ貝をどのような道具にして使ったのか」という課題を探求する中で、無土器時代の特徴や当時の人々の生活について、実感をもって理解を図ることであった。

授業では、児童にアラフ遺跡から出土した遺物の写真や本物のシャコ貝を提示し、事前に学習している縄文時代と関連をはかりながら、課題に対する様々な仮説を立ててもらった。

そして、立てた仮説に意義を持たせることが、児童の意欲換気につながり、また、教育実践においても、意義のある取り組みになるであろうと思案し、博物館と連携して取り組むことになった。

¹ 平成10年の学習指導要領の改訂において、「総合的な学習の時間」が創設されることとなった。その趣旨は、教科の枠を越えた学習内容を取り扱い、横断的・総合的な教育活動を行うためである。教科書がなく、学校独自の教育計画を図ることができる。

博物館において、授業で考えた仮説を発表する学習発表会の開催と講義を依頼した際、学芸員の提案で、シャコ貝製貝斧作りの体験学習活動を取り入れることになった。



(右・写真1)シャコ貝製貝斧の体験学習
(下)児童の仮説と感想

私の仮説
刃物

理由刃物にした理由は、今日、博物館で久貝さんと言人から色々教わってもらって、シャコ貝は貝斧と言物に加工して、その貝斧と言道貝は舟台を作る時に使っていたと言っていました。セアニアと言国では今でも、その貝斧を使って舟台を作っていると久貝さんが言っていました。そして、ぼく達は実際に貝斧作りをやって、大昔の人達はかたいシャコ貝を石でぎんりにあてて、ぼく達はそううまくいかなかったけど、いい体験をしてよかったです。

感想

私の今日の感想は、シャコ貝が貝斧に使われてたことがわかりました。後、作って、シャコ貝で、貝斧以外にも、おにき作られてたということが考えられて、よかったです。作って、石で、シャコ貝を、あて、作るのが、難しかったです。

ぼくが今日、わかったことは、昔の人は、自分で貝をけずらして、石は道具にしたということです。そして、難しかったことは、貝を、決めた形に、わることで、ぼくは、それに、難しくなり、思ってたけど、鬼っていたより、難しかったです。そして、気づいた事は、昔の人の人は、貝を、いしからかうという事に、気づきました。

この取り組みでは、児童の仮説発表のあと、学芸員より、児童の仮説に適切な高評価をいただき、児童の自信喚起になった。その後、児童は、宮古島の無土器時代についての講義を受け、実際のシャコ貝製の遺物やその他の遺物にふれる体験やシャコ貝製貝斧を実際に作る体験をすることができた。

この学習活動において、博物館と連携して取り組むことにより、①学習成果の発表の場づくりと機会の創出、②実物に触れる機会の創出、③体験的活動の実施、④児童の意欲喚起、⑤児童の学習活動に有用感を与えることが可能となった。

「宮古島の世界遺産」は、11月から12月にかけて行った実践で、「宮古島にある自然、歴史、文化などで世界遺産にふさわしいものはないか」という探求課題を設定した。

授業では、まず、インターネットを活用して、さまざまな国の世界遺産について調

べる活動から始め、世界遺産についての選考基準などについても学習し、「世界遺産とは、どういうものか」という大まかな概念を持たせた。そして、宮古島の自然、歴史、文化から、世界遺産に値するものについて探求する目的を持って、博物館見学を行った。

くらしについて学ぶ教育実践「政治と私たちのくらし」に取り組んだ。

まず、①公共施設の意義を考えることを行い、これまでの活動をもとに、博物館が児童にとってどのような施設かについて意見をまとめた。

次に、博物館の予算についての資料を提供してもらい、それをもとに、質問を考えた。そして、博物館へ赴き、質問会や施設見学、仕事内容や予算について話を伺い、税金とくらしについて考えることができた。

小学校6年生の社会科では、日本国憲法をもとに、国民の権利を学習する内容がある。学習を深めるため、国民の権利について学習をしたあと、「博物館法」の条文をもとに、博物館が国民の権利で保障していると考えられるものを考えた。取り扱った題材は博物館のみだが、公共施設が国民の権利を保障するための機能を果たしていることについて考えることができた。

これらの学習活動のあと、実際に、宮古島市民の博物館に関する意識調査を実施することになった。博物館に関する世論調査である。市民が博物館について、どのような意見や考えがあるのかを聞き取ることによって、さらに、政治とくらしの結びつきを、立体的に、そして、現実的に感じたり、理解を深めるねらいがある。

児童にとって、これまでの授業で博物館と多くのかかわりを持ったことは、身近になった博物館の良さや問題に気づきやすくなっていると考えた。また、意識調査を通して、課題を見つけやすく、その解決については、切実さを持って考えることができる雰囲気が醸成されていることも、活動を行う中で重要な原動力となった。

意識調査では、質問内容を児童が考え、実際に街頭や店舗に赴き、約300人あまりの市民に聞き取り調査を行った。その調査結果をまとめ、その中から博物館の課題を探り出し、解決策を考えまとめた報告会を博物館で開催することが出来た。また、これまでの学習活動で児童が制作した展示物を、博物館に特別に展示してもらうこともできた。

この実践は、博物館にかかわる社会的事象を学習の対象として取り扱った事例である。そのため、児童は博物館から、または、博物館を通して、政治と私たちのくらしについて、どのようなことが学習できるのかが重要になる。

まず、博物館が公共施設であることから、①公共施設の意義と国民生活との関連について、②税金と国民生活について、③国民の権利と博物館との関連について、学習することができた。次に、博物館を通して、宮古島市民から①博物館に対する意識や考え方の多様性、②博物館への要望の多様性、③博物館が国民生活の向上と安定にかかわっていることを学習することができた。

これまで紹介した砂川小学校の実践事例は、主に、児童に「実感もてる」活動にすることにねらいがある。「何を学んでいるのか」「学習していることは、どんな意義があるのか」「あの頃は、どんな生活だったのか」など、具体的なものや活動を通して、「実感もてる」ようにしているのである。私は、児童自身が、そのようなことを実感できなければ、

地域の歴史や自然、文化を学んでいても、博物館を活用する学習活動を実践しても、教育的意義は多く得られないと考えている。

そのことを、学校も博物館も意識した上で、連携や協同することが、有意義な学校教育活動を創造し、平和で豊かな文化の創造に寄与すると考える。

4. 博物館での学習をとおしての課題点と効果

(1) 博物館の視点から

今年度は、小学校を中心に多くの博物館への見学があった。砂川小学校の事例については、両担当者の連携が上手くいき、スムーズな学習活動を展開することができたが、全般的な展示見学・案内については、反省点も多かった。誰しもが感じるような当たり前のことではあるが、今年度の反省も踏まえて、いくつか整理をしておきたい。

まず1つ目に、館内の案内方法がある。これは、見学する団体の規模との関連性が強く、学校の規模にも比例してくる。一つのクラスを案内する分には全く問題はないが、複数の学級が館内を訪れ、各展示室を巡回して見学する際には、展示室間の移動がうまくいかない場合が多かった。特に2つの常設展示室に特別企画展示室を合わせた3つの展示室を移動する場合、児童・生徒を3つのグループに分け、それぞれの展示室の案内が終了する時間帯を決めてまとまって移動する必要がある。しかし、実際には、時間帯がずれたり、移動の間に集団がばらけたりして、次の展示室への移動がスムーズにいかない場合が多かった。この点に関しては、博物館と学校側とが互いに協力し、児童・生徒を引率していく必要があると感じた。また、案内の際には、職員を各展示室に配置して案内することの場合が多く、一つの集団に対して一人の職員が各展示室を案内することで、集団としてのまとまりを保つことが推察される。そのためにも、各職員の自然・歴史・民俗・美術・工芸の各分野の全般的な知識の向上も必要とされてくる。

2つ目に、見学終了後の学校側との意見交換が希薄であった点があげられる。見学が終わった時点で、両者とも反省点があると思われるが、それぞれが自己完結していたように感じる。両者とも限られた時間の中で意見交換を行う手段として、アンケートを実施するなどして、相手側からの改善点を把握しておく必要があると考える。

3つ目に、見学の案内を行う博物館職員の分かりやすい展示説明が求められている。小・中学生への展示解説は、えてして一般の見学者(成人)に比べて難しく、同じ事柄についても、平易で分かりやすく説明するためには、事前準備が必要不可欠である。また、興味・関心をもってもらうための解説には、博物館で準備されている展示物と同様の資料(レプリカや博物館で製作した資料など)をうまく活用すると、非常に効果的であった。また、展示説明をよりスムーズに分かりやすく行うための補助的な説明パネルなどを利用することも解決法の一つであると考えている。今年度は、実際に先史文化に関する補助的なパネルを作成したが、説明する側も図や年表を提示することで、うまく自分の説明する意味を伝え

ることができたと感じた。

以上が、実際の学習の際に生じた博物館側からの課題点である。しかし、これとは別に博物館が学校教育の一つとして今以上に活用されていくため必要と感じられた点についても整理しておきたい。

まず1つ目に、博物館事業（企画展など）の周知について考えてみたい。今年度、慰霊の日にあわせた実施した特別展示では、複数校の見学があり、平和学習の一環として一定の役割を果たせたのではないかと感じた。その一方で、その他の企画展、特別展にあわせての見学というのはほとんどなく、うまく連携することができなかった。その原因としては、博物館の年間行事がうまく伝わっていないことがあげられる。事前に年間計画の周知を徹底し、学校側が見学の計画を立てやすい環境づくりに努める必要があると考える。同時に、博物館の方でも学校側が求めている博物館の活用方法についても、理解しておく必要があると感じられた。

2つ目に、郷土の自然・歴史などの文化を学ぶ場としての常設展示の活用の促進があげられる。砂川小学校の事例にもあるように、常設展には宮古の文化を学ぶための資料が数多く展示されている。しかしながら、展示物を見学し、解説を受けるだけでは、児童・生徒の理解が深まることは困難であると感じた。展示物に付随する多くの事象、背景を併せて学ぶことで、理解を深めていくことができるのではないかと考えた。そのためには、展示室だけでなく、研修室も利用した博物館の学習は効果的であると考えた。

(2) 学校側の視点から

平成22年度の宮古島市立砂川小学校6学年においては、博物館を活用した学習活動を多く実践することができた。それら実践をもとに考えられるいくつかの課題を、学校側の視点から指摘したい。

私が考える課題は、①学校側の博物館を活用する理念、②協同関係のあり方、③児童の送迎、④児童の社会的マナーの4つである。

まず、一つ目の①学校側の博物館を活用する理念については、博物館と連携して取り組むことに、どのような教育的意義を創り出そうと、学校側が考えているかである。

多くの人々は、博物館は展示品を見て歩き、歴史や文化、自然などについて知る場所だととらえている。学校側も、同様な見方であれば、砂川小学校のような教育実践を創り出すことはできないと考える。

私は、博物館を、「実感のもてる」場所、「実感」を創り出す場所として教育実践してきた。その中で、博物館は、児童にとって「学習の課題を解決する場所」、「体験学習を支援してもらおう場所」になり、教師にとって「協同して教育的意義を創り出す場所」として機能したと考える。それは同時に博物館の意義・目的にかなった活動としても、評価に値するものといえる。

今回の経験をもとに、おそらく、私が考えるような理念が学校の教師に希薄であれば、有意義な学習活動に高まることは難しいと考えている。

次に、②協同関係のあり方についてである。このような多くの学習活動を実践できたのは、協同できる体制が博物館において整っていたからである。また、学校の教師と博物館の学芸員の協同関係を築けることが重要である。特に、学校の教師と博物館の学芸員が活動理念を共有し、児童の学習活動に、どのような教育的意義を創り出すことが可能なのかについて、話し合えるとよいのではないかと考える。

次に、③児童の送迎の問題である。博物館に行きたくても、児童を送迎することが困難である場合が多い。学校側の苦心は、多くの時間的負担や人的負担がかかることである。そのような負担を解消する制度が整えられたり、また、多くの負担を抱えても、博物館と連携して取り組むことにより得られる教育効果や意義が大きければ、博物館を活用する学習活動は増えると考えられる。

最後に、④児童の社会的マナーについては、学校側での指導のあり方が大きく関連している。児童に社会的マナーが身につくのであれば、校外での学習は安心である。また、博物館を活用する機会を利用して、社会的マナーを指導し、育成することも大切な学習活動となる。そのような視点を、受け入れる博物館側も理解した上で、連携をしてほしい。

(3) より良い博物館を活用した学習にむけて

ここまでの博物館、学校側からの課題点も踏まえて、博物館を利用した学習の全体的な流れと留意点について整理していきたい。まず、全体的な流れを図3に示したように4つの段階に分けてみていきたい。

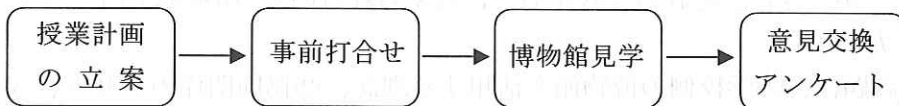


図3 博物館を活用した学習の主な流れ

①授業計画の立案について

- ・郷土の自然・歴史・文化などを題材とする。
- ・「仮説を立てる」など、学習活動に課題や問題を設定し、資料を活用しながら探求できるものにする。
- ・発表会や報告会を通して、専門家や保護者、様々な人々に聴いてもらう機会と場所を設定する。
- ・活動に意義を創り出すための手立てを考え、準備する。
- ・送迎などの協力依頼など。

②学校と博物館との事前打合せについて

- ・日時の設定（他の見学などと重複しないよう）
- ・1～3 日前までには学校側の担当者が博物館を訪れ、実際に見学する展示物の確認を行うことが望ましい。
- ・授業への準備（担当学芸員の必要人数、見学展示物の確認、資料の作成）
 - * 資料は、学校側がワークシートを準備することが望まれる。また、博物館でも授業を補完するための資料を作成も必要である。いずれも事前に内容の確認を要する。

③博物館見学

- ・館内の生徒の引率は学校・博物館側の両方で協力して行い、団体行動を心がける。
- ・他の見学者に迷惑をかけない、見学の際のマナーも事前に充分認識させる。

④意見交換（アンケートの実施）

見学終了後には、アンケートなどを実施して今後の改善点について意見交換を行う。

(4) 児童・生徒へ与える効果について

砂川小学校のシャコガイ製貝斧を主要テーマとした「宮古島の昔の暮らし」の授業実践の学習を例に、授業の流れと児童・生徒への学習効果の模式図を図4に示した。この中で特に重要とされるのが、「仮説構築」と「仮説発表」である。この2つの過程では、問題提起について児童・生徒が自分の意思で考えることで豊かな発想力と、仮説を主張するための裏づけ調査などが意識付けられ、より深く興味をもって問題について取り組むことができる。また、その仮説を発表することで、自分の意見をアピールし、主張していくことを学ぶと同時に、他者の意見について賛同できる点、疑問に思う点が生まれ、議論を深めていくことができる。結果として、児童の意欲喚起、児童の学習活動に有用感を与えることが可能となっていった。

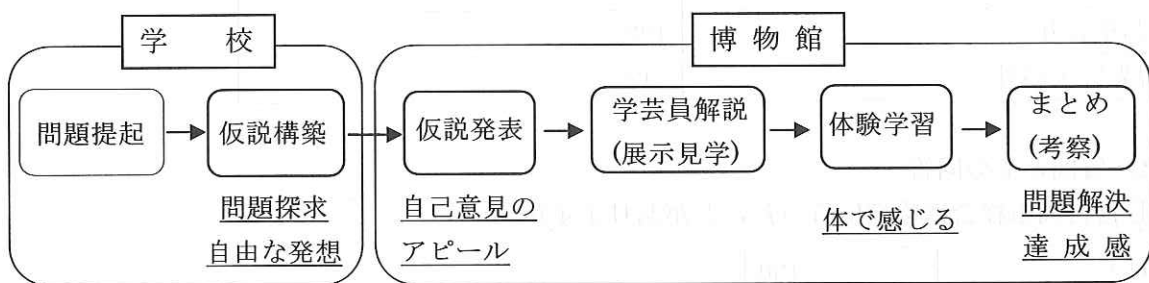


図4 砂川小学校の博物館を活用した学習の流れ及び児童・生徒への効果模式図

5. さいごに

今回は、主に砂川小学校の博物館を活用した授業実践について紹介し、博物館の活用方法などについて考えてきた。課題点も多く、博物館として反省する展示見学の事例もあったが、お互いが児童・生徒の学習の場として博物館を有効的に利用・活用していきたいと

いう点は共通の思いである。宮古は、県内でも沖縄本島とは異なる先史文化をもち、島の約98%が琉球石灰岩で構成され、ハブが生息せず、ミヤコヒキガエルやミヤコサワガニなどの固有種も数多く生息するなど独特の文化をもつ地域である。このような郷土の特色ある文化を学ぶ場として博物館はこまれでも重要な役割を果たしてきた。今後も、より一層学校と博物館との連携を深めていきたい。

付録. 博物館に関する市民の意識調査

前述したように、砂川小学校6年生は、社会科の「政治と私たちの暮らし」を学ぶ中で、博物館に関する市民の意識調査アンケートを実施した。博物館を対象とした意識調査は、これまでも例がなく、今後の博物館のあり方（企画展などの情報発信、ピーアール方法、活用方法など）を考える上でも貴重なデータといえる。以下に、その調査結果について報告を行う。

1. 回答者について

アンケートは、市街地の大型スーパーを利用する人々を対象に実施した。アンケート回答者の内訳は、以下のとおりである。

宮古島市民	312
子ども	2
中高生	0
大人	188
お年寄り	122
観光客・島外	17

2. 質問とその回答

(1) 宮古島市総合博物館に行ったことがありますか。

はい	180
いいえ	132

<いいえの理由>

時間がない/関心がない/いそがしくて行く機会がない/年寄りだから、行きたいけどタイミングが合わない/興味がない/道がわからない/伊良部から遠いから/子どもが小さくて大変だから

(2) 宮古島市総合博物館の企画展や講座に参加したことがありますか。

はい	48
いいえ	114

<いいえの理由>

よくわからない/講座があると知らない/ひまがない/参加する必要がない/関心がない/仕事で忙しい/どういったことをやっているか情報がない

(3) 博物館の対応はよかったですか。

はい	121
いいえ	12
わからない	10

<わからないの理由>

一人で行ったからあんまりわからない/一人で見て回ったから

(4) 博物館に行つての感想

1 回行けばもう行かなくていい所/わからない所が多い/昔のことがよくわかる/自分の興味のものがいっぱいある/勉強になった。昔の道具がたくさんあった/色々な体験ができる/あんまり足を運びたいと思わない/市内にあったらいい/勉強になった/歴史などをふり返られた/宮古の歴史がわかった/ガイドさんの説明がよかった/今までわからなかったのがわかった/また来たい/子どもを連れて来ても喜ぶからよかった/資料がたくさん/昔の人の暮らしがわかった/フツでしょ/展示案内してくれた/展示物が少なかった/もっと宮古のものを展示してほしい/昭和のきびしさがわかりやすい/自分達のルーツが知れてよかった/何度も行きたくなる所/きれいだった/めずらしくて楽しめた/なつかしかった

(5) 博物館の予算は 2000 万円です。これは宮古島の約 0.5% です。これは多いと思いますか少ないと思いますか。

多い	19
少ない	56
わからない	59
いいくらい	13

<少ないの理由>

電気料がかかるから/いろんなものを持っているから/宮古に大事なものは昔の文化を知ることだから/博物館はふつうのところと違って、お金を使うと思うから/宮古にとって大事なことを知らせるため/後世に残すから/もっとお金ありそうだから

<わからないの理由>

何に 2000 万円を使っているかわからない/ふつうの博物館の予算がわからない/2000 万円を何に使っているかわからない/意味がわからない/基準がわからない

(6) 博物館予算は2000万円で収入は180万円です。もっと収入を増やした方がいいですか。

増やした方がいい	107
増やさなくてもいい	33
わからない	18

<増やした方が良いの理由>

収入を増やすためもっと人が訪れるような取り組みをする/増やせるなら/少ないから/見たことがないのをおいてほしい/住民の税だから/つり合わないから/収入が少ないから

<増やさなくても良いの理由>

商売じゃないからもっと努力して、入館料を増やした方がいい/入館料が増えたら人が来なくなるから/フリーでいいと思う、人が来ないから/ふつうでいいと思う/人が来なくなるから/市民が関心を持てば、入館者数が自然と増えるから/不景気だから

(7) 博物館の要望はありますか。

自立性をもっと強くする/案内人を増やす/宣伝をする/学習するところをもっと増やす/収蔵品を増やす/宮古の展示物を増やしてほしい/何度も来たくなるようなものもよいものをしてほしい/特にない/市内にあった方がいい/見たことのないのをおいてほしい/もっと人が訪れることをする/大人の楽しめる企画展/子ども向けの企画展を増やす/時間帯をもう少し考える/博物館に行く道がわかりにくいから、わかりやすくしてほしい/もっと色々な企画展を開いてほしい/絵の展覧会をやってるからもっと絵を飾ってほしい/昔のことだけでなく時代の流れも説明してほしい/もう少し人の集まる企画をやる/予算面でも、博物館のことをラジオや新聞やテレビでPRしてほしい/これからも継続してがんばってほしい/大人の楽しめる企画展を作してほしい/営業時間を増やしてほしい/専門員を増やしてほしい/イベントをもつ/入り口に花を植えてほしい/遠い所にあるから交通を増やしてほしい/駐車場にトイレをつけてほしい

<砂川小学校6年生の名前>

砂川響 砂川誠智 池村郁哉 奥松昌季 下地喜樹 下地健大 大田聖也
川満郁弥 新垣孝衛 友利陽 荷川取春佳 徳田雛子 友利有沙 池原優絵 友利文音